

どんなときでも

シリーズ・パウロ

第38回

パウロの一番弟子、テモテ

- ・ 祖母と母から信仰を受け継いだ

- 「あなたが抱いている純真な信仰を思い起こしています。その信仰は、まずあなたの祖母ロイスと母エウニケに宿りましたが、それがあなたにも宿っていると、わたしは確信しています。」[1:5]

- ・ パウロがわが子のように愛おしんだ

- 「信仰によるまことの子テモテ」[1テモテ1:2]
- 「わたしは、昼も夜も祈りの中で絶えずあなたを思い起こし」[1:3]
- 「急いでわたしのところへ来てください。」[4:9]

パウロの同労者としてのテモテ

- ・ パウロの2回目の宣教旅行から同行した
- ・ パウロの代理・使者として派遣された
 - 「テモテをそちらに遣わしたのは、このことのためです。彼は、わたしの愛する子で、主において忠実な者であり、」[1コリント 4:17]
- ・ ローマで監禁されているとき、共にいた
- ・ 6つの書簡の共同執筆者(筆記者)であった
 - 「キリスト・イエスの囚人パウロと兄弟テモテから」[フィレモン 1:1]

エフェソ教会の牧師としてのテモテ

- ・ **小アジア最大の教会の牧師に任命された**
 - 「あなたはエフェソにとどまって、ある人々に命じなさい。異なる教えを説いたり・・・」[1テモテ 1:3]
- ・ **まだ若かった(30代か?)**
 - 「あなたは、年が若いということで、だれからでも軽んじられてはなりません。」[1テモテ 4:12]
- ・ **気が小さく、胃腸が弱かった**
 - 「これからは水ばかり飲まないで、胃のために、また、度々起こる病気のために、ぶどう酒を少し用いなさい。」[5:23]

2テモテ4:1-8

神の御前で、そして、生きている者と死んだ者を裁くために来られるキリスト・イエスの御前で、その出現とその御国とを思いつつ、厳かに命じます。

御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。

だれも健全な教えを聞こうとしない時が来ます。そのとき、人々は自分に都合の良いことを聞こうと、好き勝手に教師たちを寄せ集め、真理から耳を背け、作り話の方にそれて行くようになります。

しかしあなたは、どんな場合にも身を慎み、苦しみを耐え忍び、福音宣教者の仕事に励み、自分の務めを果たしなさい。

わたし自身は、既にいけにえとして献げられています。世を去る時が近づきました。わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。今や、義の栄冠を受けるばかりです。正しい審判者である主が、かの日にそれをわたしに授けてくださるのです。しかし、わたしだけでなく、主が来られるのをひたすら待ち望む人には、だれにでも授けてくださいます。

「御言葉」を宣べ伝えなさい

- ・「御言葉」とは聖書の言葉とイエス・キリスト
 - － キリストは人となられた「御言葉」(ロゴス)
- ・「御言葉」は神からの与えられた真理
 - － 人間を罪から救い、永遠の命を与える
 - － 「聖書はすべて神の霊の導きの下に書かれ、人を教え、戒め、誤りを正し、義に導く訓練をするうえに有益です。」[3:16]
- ・神は宣べ伝える人を用いられる
 - － パウロは最高の見本であった

困難な時代

- ・ だれも健全な教えを聞こうとしない時が来る
 - － 自分に都合の良いことだけを聞く
 - － 御言葉には都合の悪いこともたくさん含まれている
- ・ 終わりの時には「困難な時期」がくる
 - － 「そのとき、人々は自分自身を愛し、金銭を愛し、ほらを吹き、高慢になり、神をあざけり、両親に従わず、恩を知らず、神を畏れなくなります。また、情けを知らず、和解せず、中傷し、節度がなく、残忍になり、善を好まず・・・」[3:2～]

折が良くても悪くても

- ・ 時を選んではならない
 - －「御言葉を宣べ伝えなさい。折が良くても悪くても励みなさい。とがめ、戒め、励ましなさい。忍耐強く、十分に教えるのです。」
- ・ 忍耐強く続ける
 - － 宣教には常に困難がともなう
 - － あらゆる困難と闘い続けたパウロ
- ・ 最後まであきらめずに
 - －「わたしは、戦いを立派に戦い抜き、決められた道を走りとおし、信仰を守り抜きました。」[4:7]